

目的 乱塾といわれる近年、何らかの型で塾に通っている児童は多く、彼らは非常に多忙で時間に追われる生活をしている。そのようななかでも受験を目的とした進学塾に通っている六年生の児童を対象に調査を行った。

心身共に成長する時期の児童の生活内容・意識について検討した。

方法 アンケート用紙を作成し記入。一部は児童が記入したが、記入できない部分については、聞き取り調査の方法で調査者が記入する方法をとった。対象は都内の某進学塾に通っている六年生の児童50名（男子31名，女子19名）である。無作為に選んだ。

期間は昭和60年10月から61年1月末日まで。アンケート記入期間は一週間。

結果 志望校に合格したいという意識が非常に強く、目標を持ってがんばっている。つらいとか苦しいとかの意識は少なく、友達と目標を一つにすることができ塾に通うこと自体は楽しく思っている。睡眠時間は平均7時間10分、夕食は10時過ぎに一人で、量は多い。通塾時間は45分から90分、塾に来る前に軽い食事をしてくる者(60%) 入浴は週3回、学校でのクラブ参加15%。塾での学習3時間—5時間、自宅での学習(塾に行った日は1時間30分、塾に行かない日は4時間から7時間、家の手伝いに参加している児童は10%。母親は78%が専業主婦。